

2-2-3 大学・学部などで組織的に実施する研究開発課題の情報収集・活用

教員・研究者が独自に個人ベースで実施している研究ではなく、学内プロジェクトや学内競争的資金など組織として実施・支援している研究開発課題について聞いた。

2-2-3-1 情報の管理状況

大学全体で見ると、全学でデータベースとして管理しているのは1割で、8割は情報管理を行っていない。

独立行政法人では、半数が法人全体のデータベースで管理している。

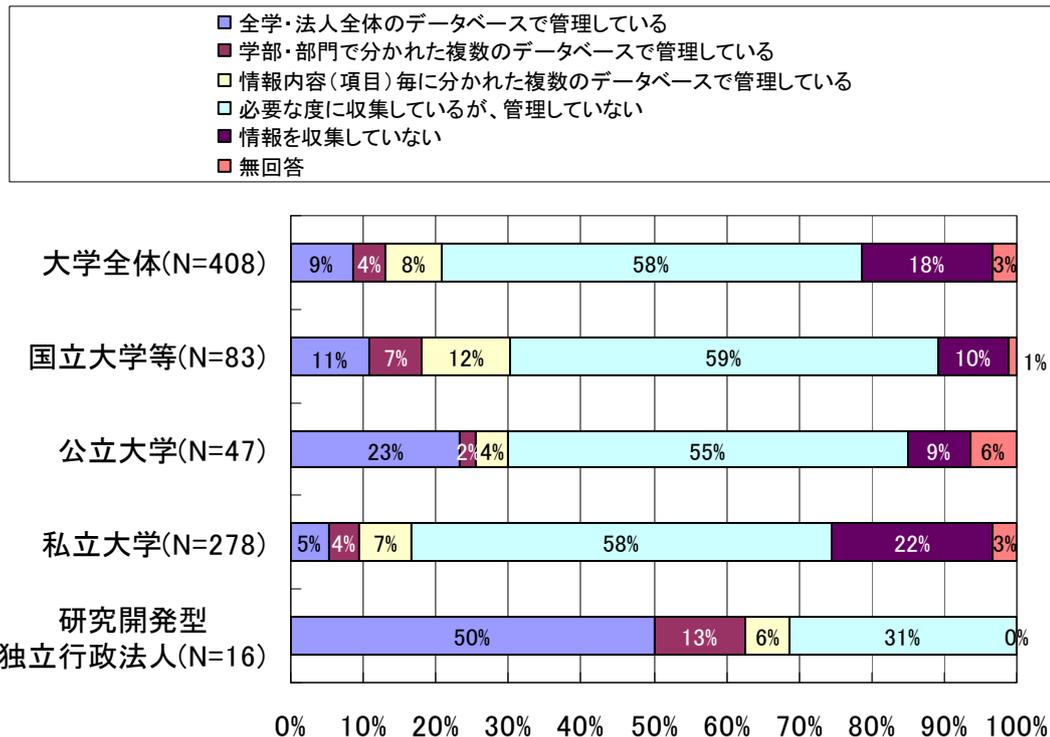


図 2-14 組織的に実施する研究開発課題の情報管理

2-2-3-2 管理していない理由

図 2-14で、「必要な度に収集しているが、管理していない」、「情報を収集していない」と回答した場合、管理していない理由としては、人的余裕がないことが多く挙げられている。データベースで管理する必要性を感じないという回答も多い。

自由回答で見ると、そもそも組織的な研究開発が少ない、あるいはないという回答も挙げられている。

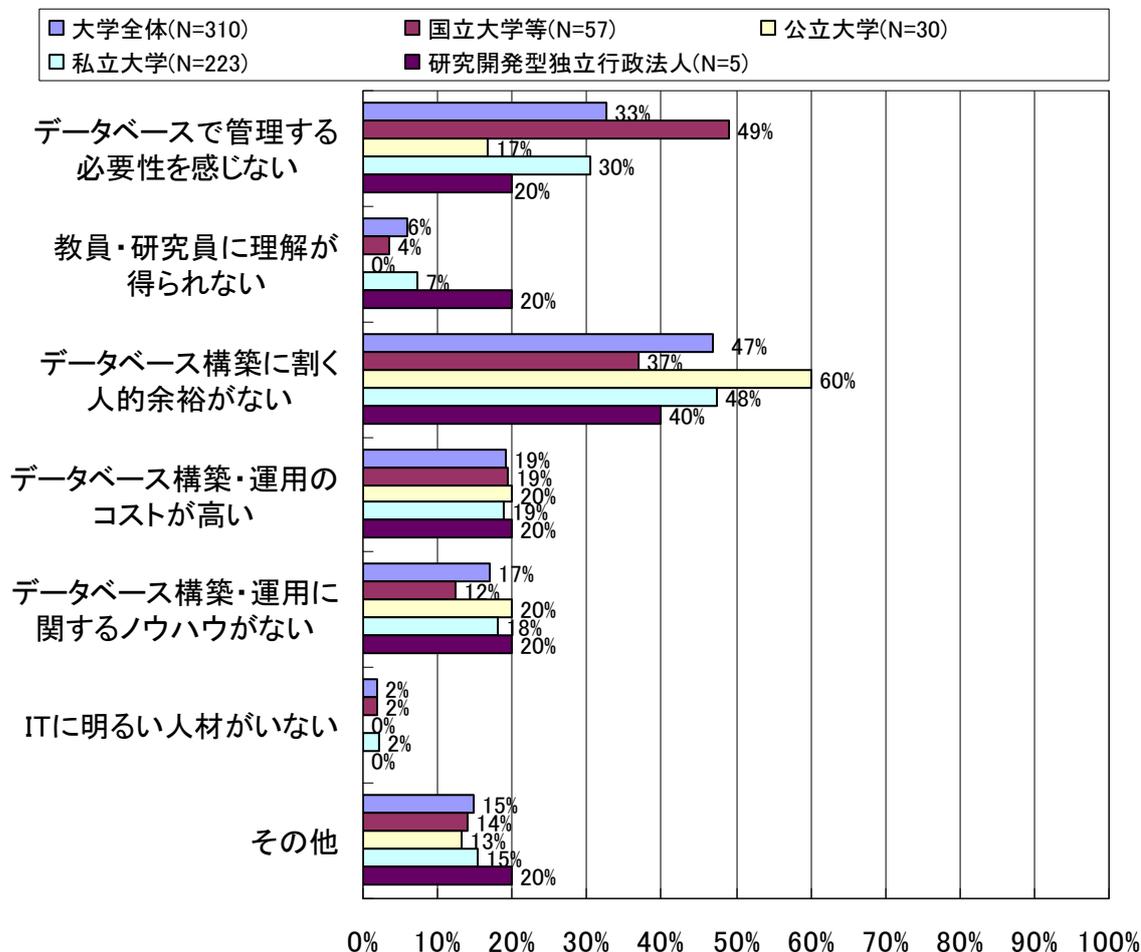


図 2-15 データベース管理をしていない理由

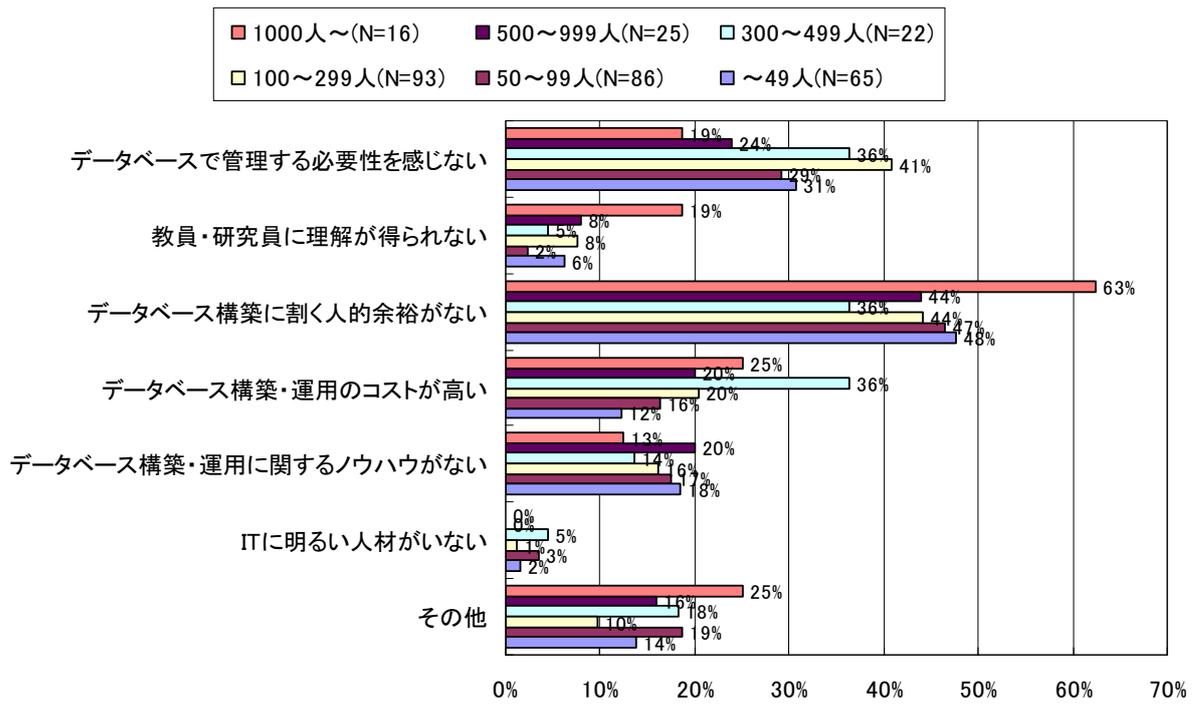


図 2-16 データベース管理をしていない理由(人数規模別)

表 2-12 研究開発課題のデータベース管理をしていない理由(必要な度に収集しているが、管理していない場合)

区分	理由	属性
必要に応じて収集	課題が少ないため、都度データを蓄積するに留めている。	私立大学
	データ量が少ないため。	私立大学
	年度単位に課題別に管理している。	私立大学
	件数が少ないので、申請時のデータのみ管理を行っている。	私立大学
	プロジェクト等の概要はデータとして残しているが、その活用法が見出されていないため。	私立大学
	単科大学で規模が小さいため、データベース化するメリットが感じられない。	公立大学
	年々、管理の精度を上げているが、データベース化まで致っていない。	私立大学
	データベース化はしていないが、自己点検、評価報告書作成のため収集している。	私立大学
	案件が少ない。	私立大学
	小規模であるため、現時点で必要時に収集で間に合っている。	私立大学
	検討の段階にまで至っていない。	公立大学
	必要性について組織として議論されていないため。	私立大学
	学内の各組織において、個別の研究開発課題の情報を収集・管理しているため。	国立大学
	研究の進行状況は、なかなかデータベース化になじまない。	大学共同利用機関
	管理する情報項目が確定していない。	国立大学
	準備中	現在データベースの構築を行っている。
極めて小規模な大学院のため、紙ベースで蓄積、今後DB化を検討。平成21年度運用開始に向けて準備中。		私立大学
H21年度から教員評価にむけて管理していく予定。		私立大学
検討中	検討中の段階。	私立大学
	検討中。	私立大学
	現在検討中である。	私立大学
	DBへデータ連携を検討中、現在Excelベース。	研究開発型独立行政法人
	必要性を感じており、現在検討中。	国立大学
	検討中。	私立大学
	検討中である。	国立大学
今後の課題	平成19年度に開学したばかりである。	私立大学
	開学間もないため(2005年)検討中。	公立大学

表 2-13 研究開発課題のデータベース管理をしていない理由(情報を収集していない場合)

区分	理由	属性
対象がない	そのような研究は今のところない。	私立大学
	組織的な研究開発件数が少ない。	私立大学
	特に実績なし。	私立大学
	事例がない。	公立大学
	組織的に実施する研究課題が未だない(開学まもない為)。	私立大学
	組織的研究活動はない。	私立大学
	研究開発課題が乏しいため。	私立大学
	データベースで管理するほどの件数ではない。	私立大学
本学で、現在、組織的に実施している研究課題はありません。	私立大学	
他の方法で管理	ReaD(リード)が管理している。	私立大学
時間不足	構築すべきデータベースが多すぎて、時間的余裕がない。	国立大学
検討中	現在、データベース構築に向け分析・検討を開始した。	私立大学
今後の課題	担当部署の認識不足のため構築していない。	国立大学

2-2-3-3 データベースの状況

図 2-14で、「全学・法人全体のデータベースで管理している」、「学部・部門で分かれた複数のデータベースで管理している」、「情報内容(項目)毎に分かれた複数のデータベースで管理している」と回答している場合、データベースの状況を聞いた。

データベースの仕組みとしては、大学全体の場合、表計算ソフトなどで管理している場合が 9 割近くとほとんどである²。

一方、独立行政法人では、独自システムが半数近くと多くなっている。

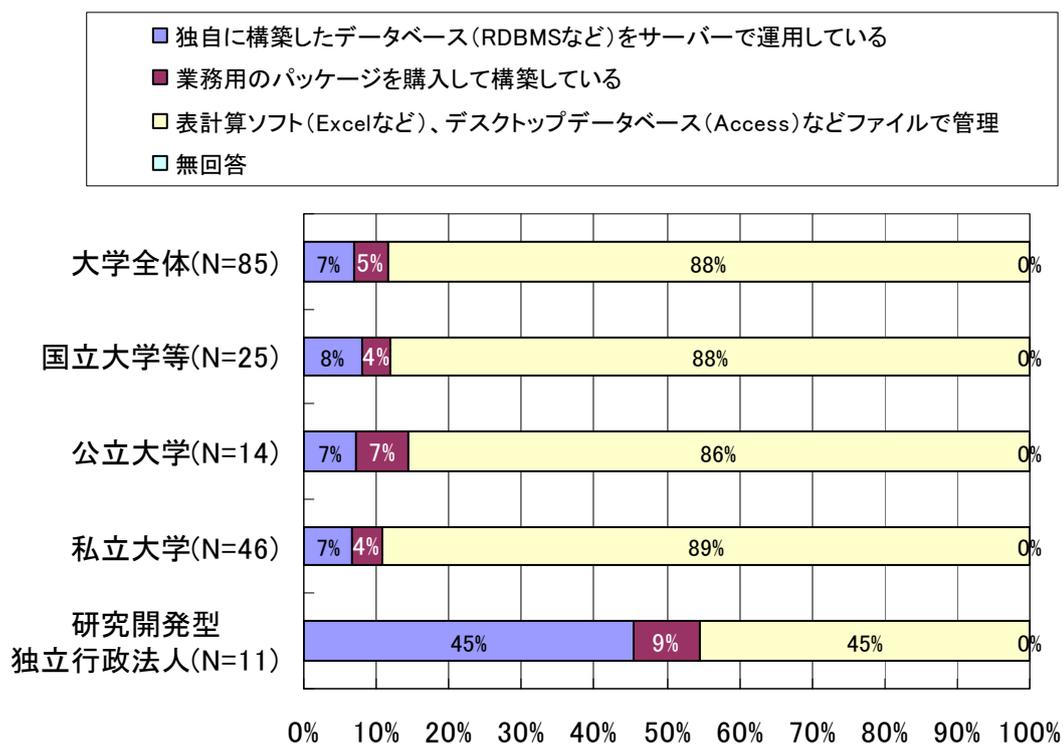


図 2-17 データベースの仕組み

² ワードファイルなどで整理しているものでも、「ファイルで管理」とみなしている。

研究者数の規模別に見ても、パッケージ、独自構築は少ないことがわかる。

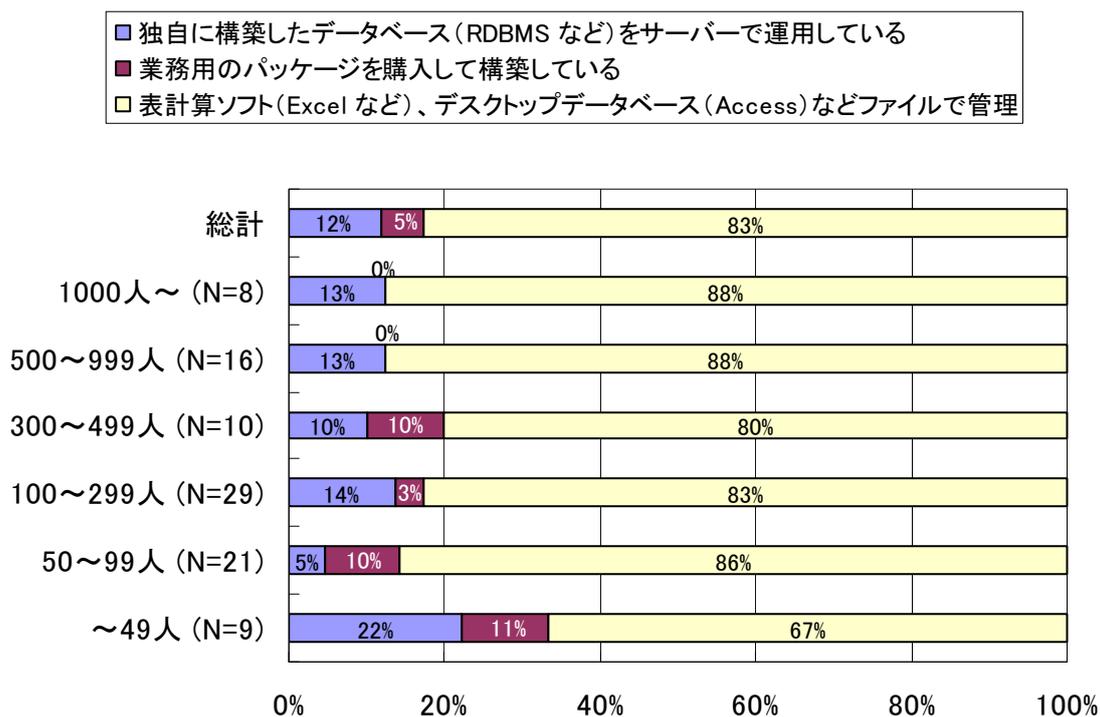


図 2-18 データベースの仕組み(研究者数規模別)

表 2-14 その他業務用のパッケージ名称

パッケージ名称	属性	回答数
SQL Server2000	研究開発型独立行政法人	1
サイボウズデデエ	公立大学	1
研究業績プロ	私立大学	1

運用開始は平成 14 年度以前がほぼ半数と多くっており、特に近年整備が進んでいるということではないと考えられる。

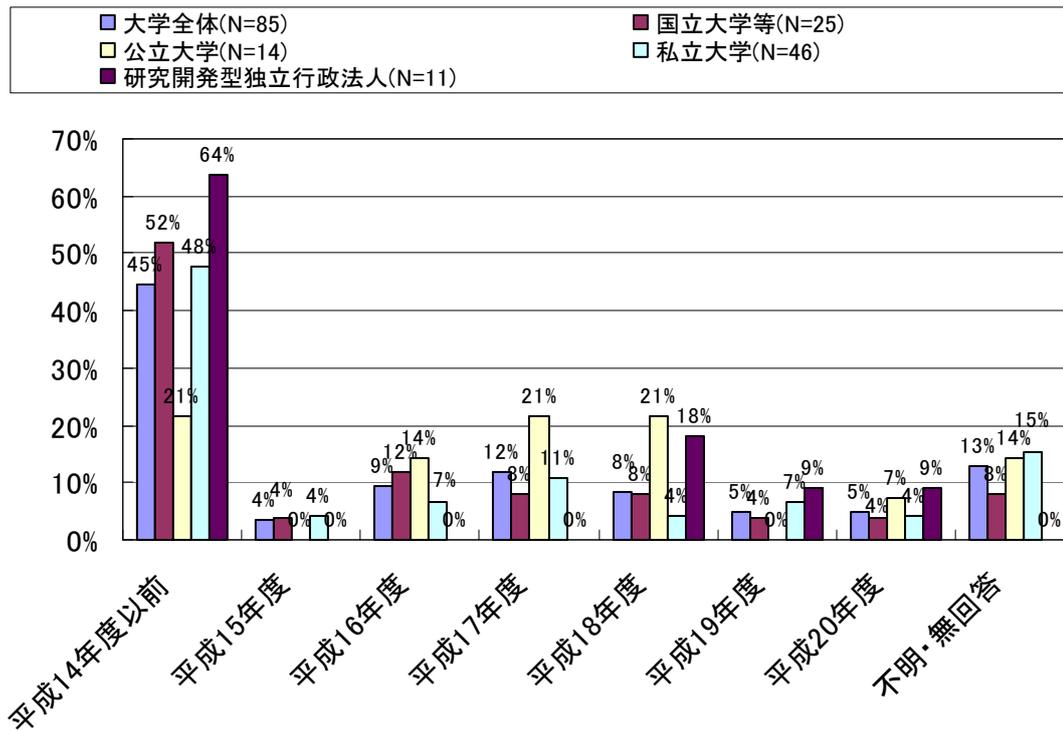


図 2-19 データベースの運用開始

情報内容としては、課題名称、担当者・実施体制、予算、成果というインプットとアウトプットが中心で、進捗に関する発生費用、進捗状況や、評価結果についてはあまり納められていない。

独立行政法人の場合は、研究開発内容(実施前)、中期計画等との関係、予算、成果も多く挙がっているところが特徴的であり、中期計画と対応しての課題設定、リソース配分が行われていることがうかがえる。

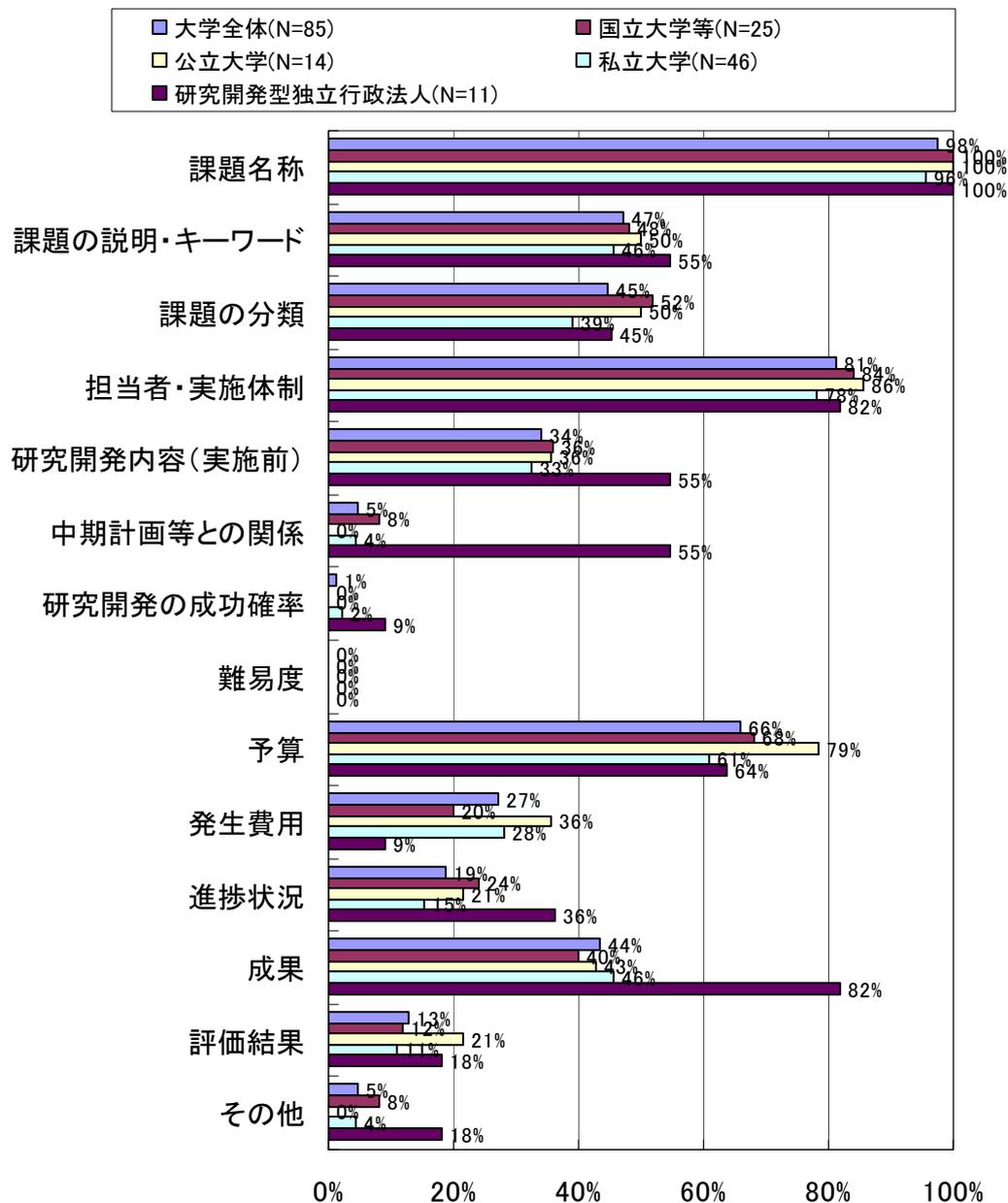


図 2-20 データベースに納められている情報

表 2-15 データベースに納められているその他の内容

その他の主な内容	属性
服飾造形研究・デザイン・パターンデータベース(DB)・パーツDB等。	私立大学
研究期間。	国立大学
実施年度。	研究開発型独立 行政法人
部局により情報内容に相違有。	国立大学
担当者氏名、所属部局。	国立大学
機構内の他組織との連携状況(あれば)。研究のインハウス率(研究資金のうち外部委託経費を除いた経費の率)。	研究開発型独立 行政法人
新規性のプレサーチ。	国立大学
研究成果の概要について、研究課題ごとに本学ホームページで閲覧が可能である。	公立大学
最新の学術・総合論文、特許等。	私立大学

カバー率は全体の 8 割程度が 80%以上である。

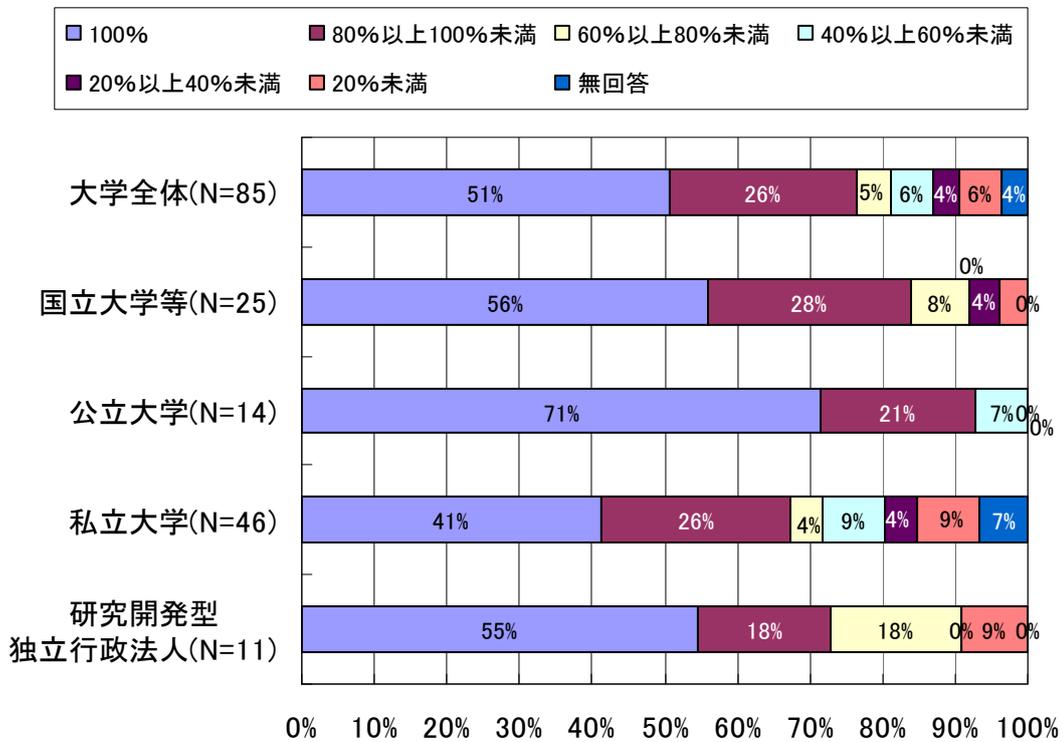


図 2-21 実施している課題に対するデータベースに納められている課題の割合

データベース活用の目的は、予算・人的管理、個別課題の進捗・成果の管理といった内容だけではなく、内部の研究者間の情報共有、外部への情報公開が多く挙げられている。

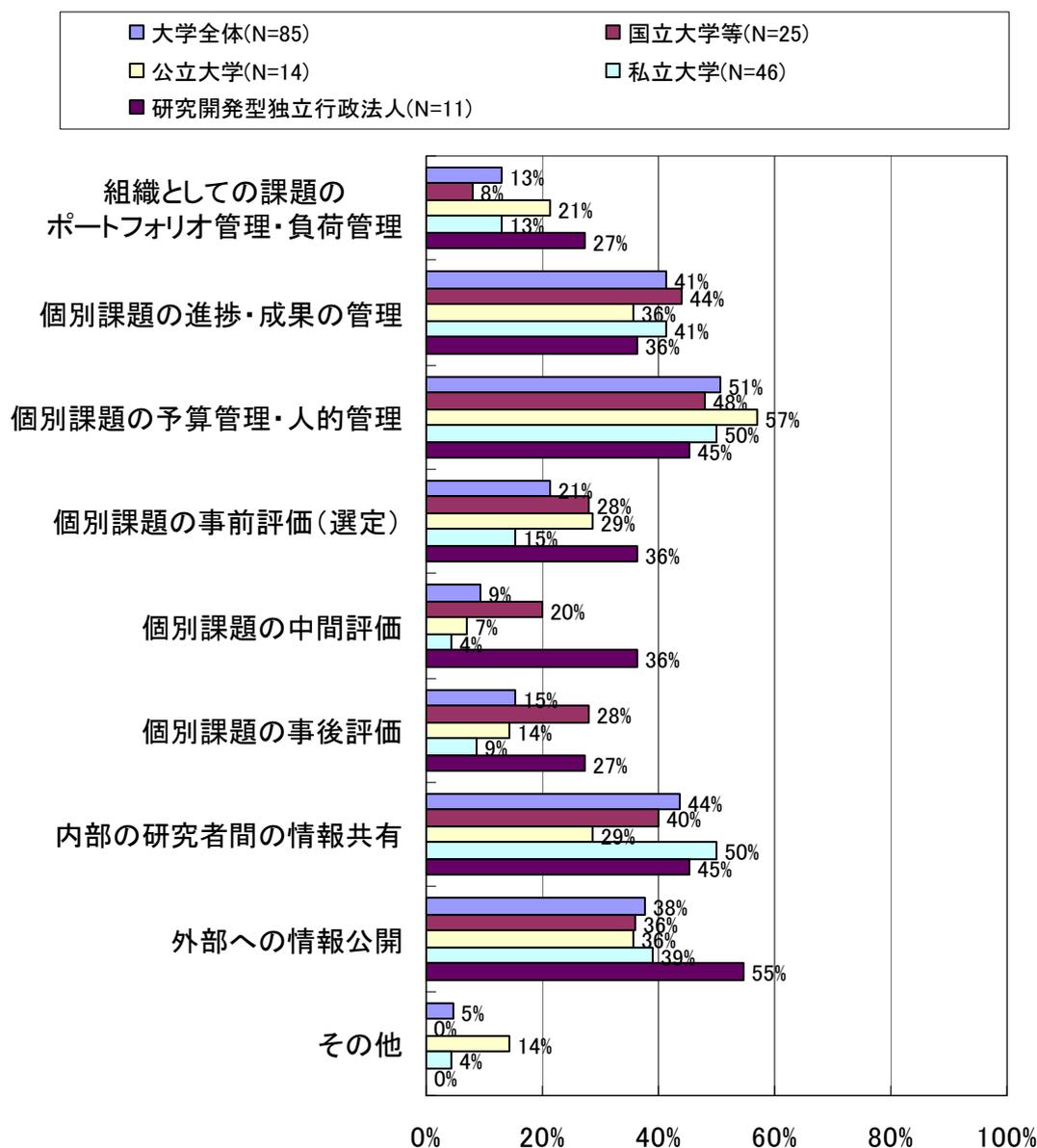


図 2-22 データベースの活用の目的

表 2-16 その他の活用目的

その他の活用目的	属性
外部とのマッチング。	公立大学
大学が行う自己点検・評価の根拠資料として活用。	公立大学
教育用(授業利用)。	私立大学
内部の事務作業で活用するため。	私立大学

2-2-3-4 データベースのメリット・課題・工夫

データベースの活用目的として事前評価、中間評価、事後評価に少なくとも1つ回答した場合について、メリット等を聞いた。

評価の納得性・効果の向上、情報共有・情報公開の実現、評価の質の向上・高度な評価が挙げられている。

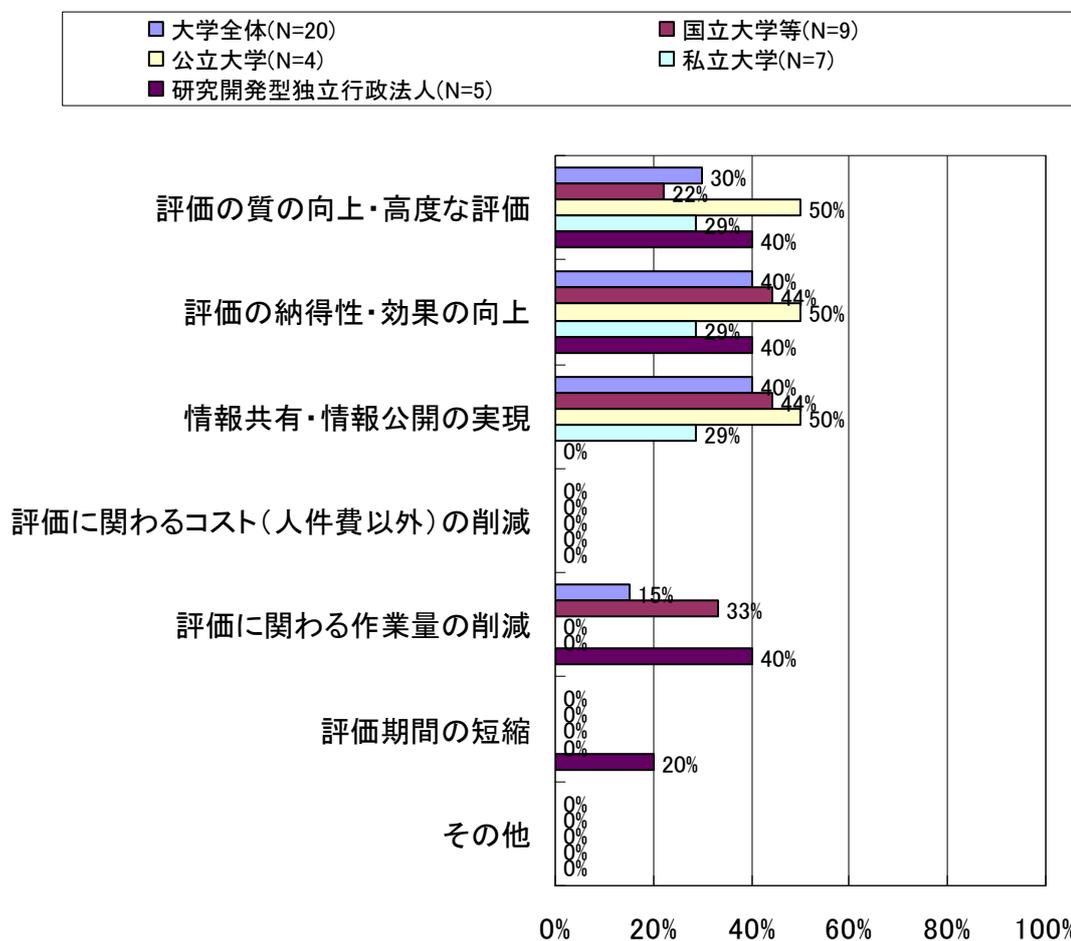


図 2-23 データベース化のメリット

表 2-17 その他のデータベース化のメリット

その他のメリット	属性
調査の回答に役立っている。	私立大学
事務処理の簡素化。	公立大学
組織横断的な研究の重点化。	研究開発型独立行政法人
メリット等はこれからの状況。	私立大学

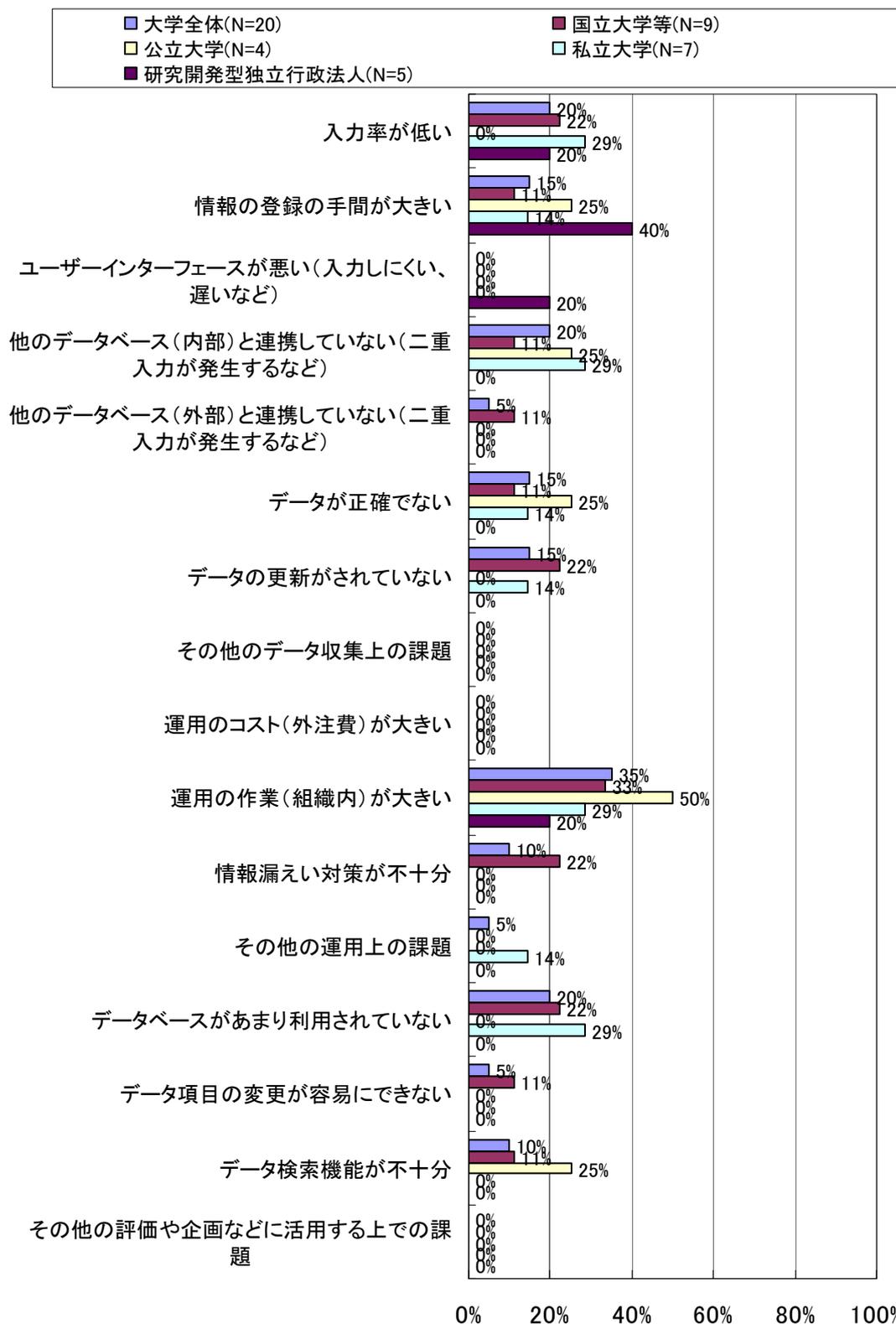


図 2-24 データベースの運用・活用の際の課題

表 2-18 その他の課題

区分	その他の課題	属性
運用	人材不足。	私立大学
評価や企画などに活用	データ項目の最適化。	研究開発型独立行政法人
	活用しているものと、していないもの(少ない)がある。	私立大学

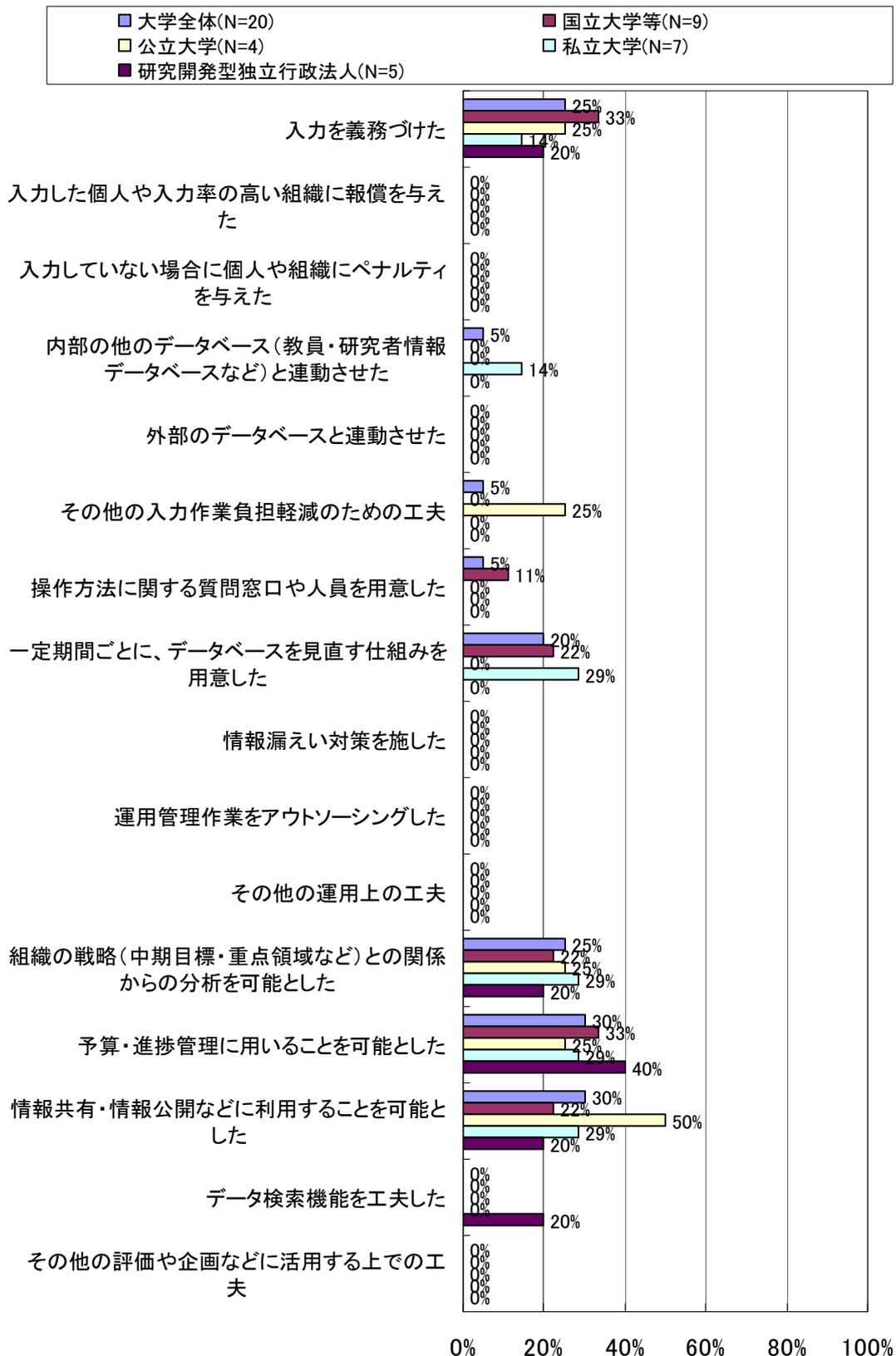


図 2-25 データベースの実効性や利便性を高めるための工夫や取組

表 2-19 その他の工夫

区分	その他の工夫	属性
入力・更新率の向上や入力作業負担軽減	事務パート職員による入力。	私立大学
	入力のための契約職員を雇用。	研究開発型独立行政法人
	入力は特定の部署で集中して行っている。	研究開発型独立行政法人
運用	期間を設けて人員をつけている。	私立大学
	一部アウトソーシング。	研究開発型独立行政法人

2-2-4 組織レベルでの研究活動に関する情報収集・管理

組織の戦略策定や外部の第三者評価(機関評価)などのために、組織単位で集める情報の取扱およびそれに関連する業務について聞いた。

2-2-4-1 情報の管理状況

全学・法人全体でデータベースとして管理しているのは1割強で、7割弱は情報管理を行っていない。ただし、国立大学等では半数以上が何らかの方法で管理している。

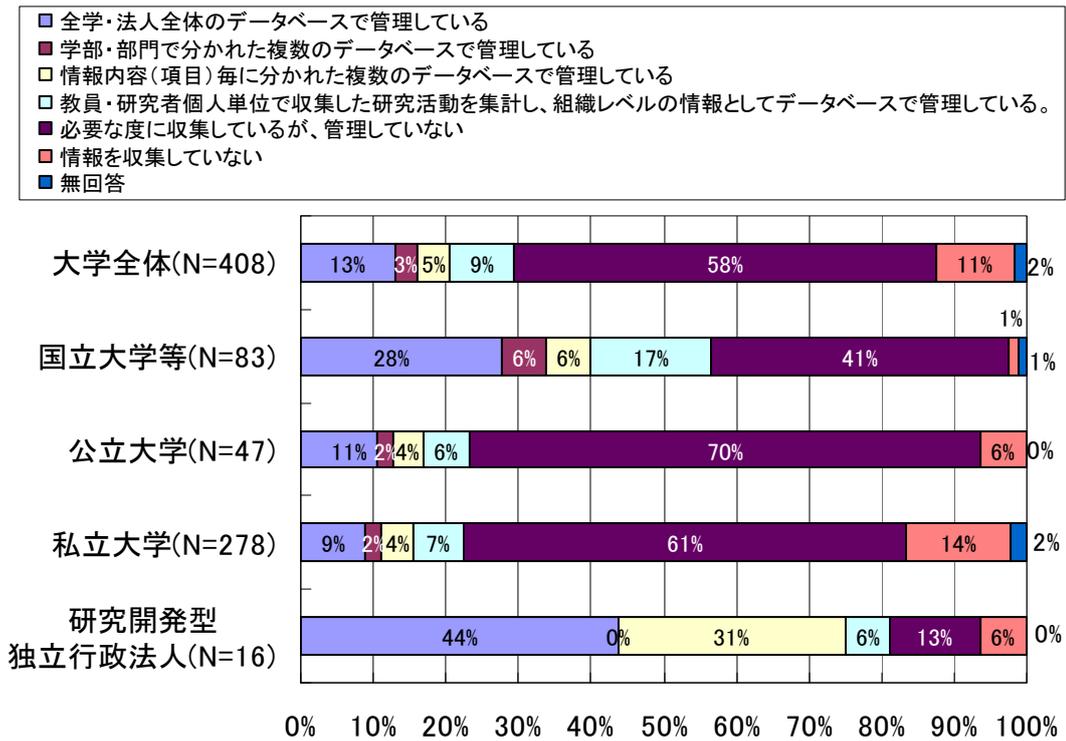


図 2-26 組織レベルの研究活動に関する情報管理

2-2-4-2 管理していない理由

図 2-26で「必要な度に収集しているが、管理していない」、「情報を収集していない」と回答した場合、管理していない理由としては、人的余裕がないことが多く挙がっている。

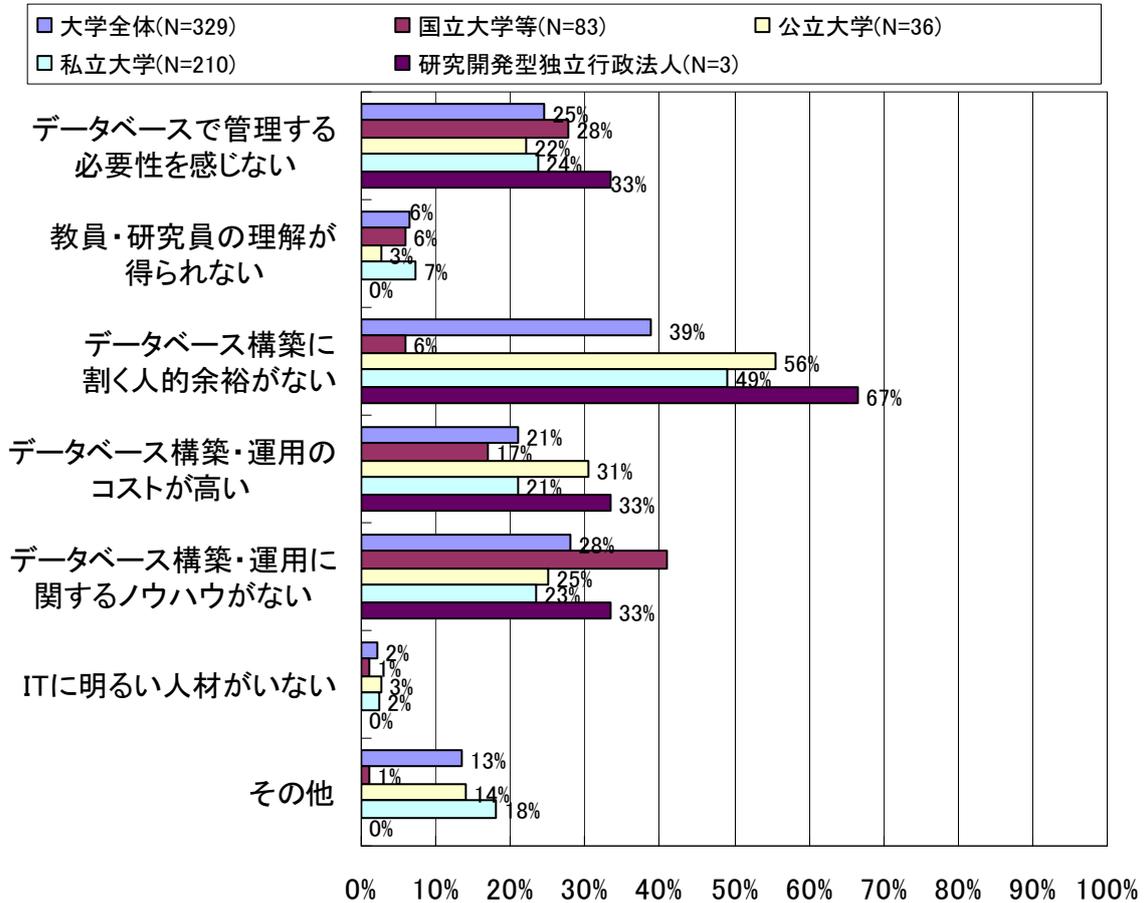


図 2-27 データベース管理をしない理由

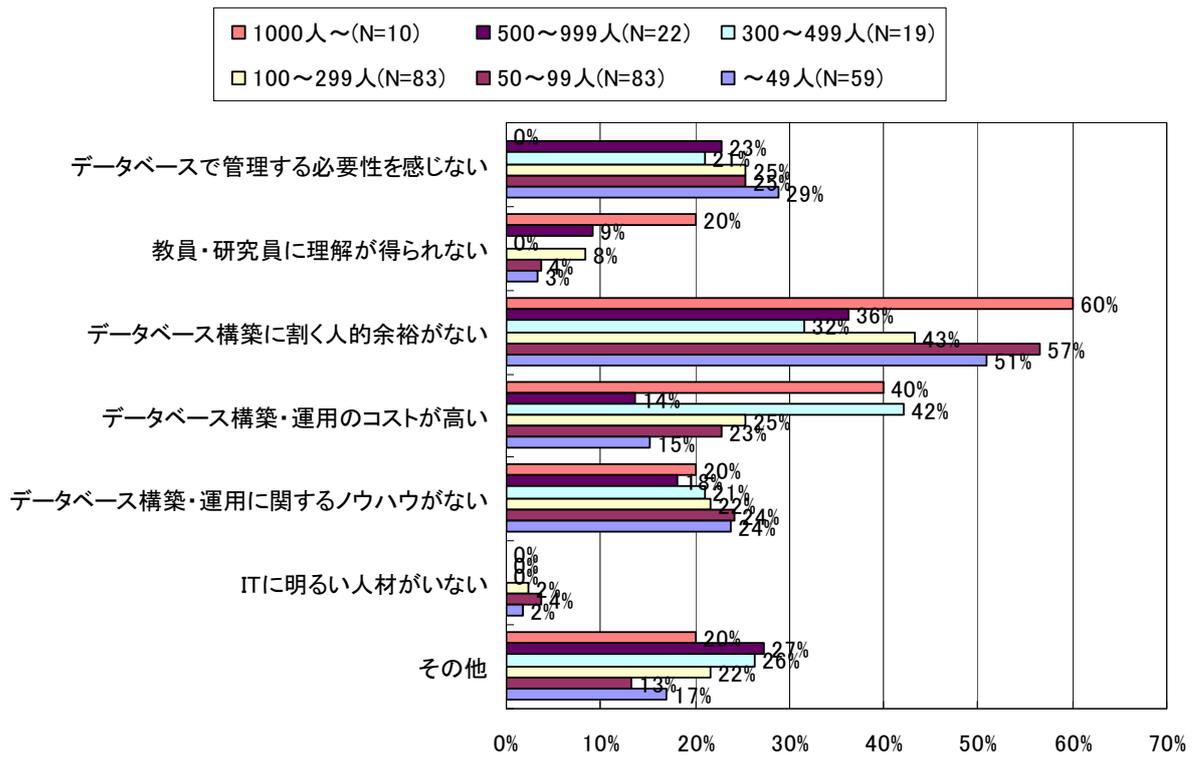


図 2-28 データベース管理をしていない理由(人数規模別)

表 2-20 組織レベルの研究活動の情報管理をしていない理由(必要な度に収集しているが、管理していない場合)

区分	理由	属性
必要に応じて収集	NIAD-UEのDBがあるので特に大学ではない。	国立大学
	pdfファイルで(項目毎の)充分検索可。	大学共同利用機関
	これを含めたDB化が課題だがまだ実現していない。	私立大学
	データベースで管理する必要性はあるが導入していない。	大学共同利用機関
	データベース化していないが、自己点検・評価報告書作成のため収集する。	私立大学
	データ量が少なく毎年文部科学省設置申請時の個人調書様式で提出させているもので十分なため。	私立大学
	ペーパーメディアで保管。	私立大学
	ワード文書として収録し、組織ごとに管理している。	私立大学
	演奏・作曲などの研究活動が多いことからデータベースになじみにくい。	私立大学
	管理が部分的に止まっている。	私立大学
	管理する情報項目が確定していない。	国立大学
	件数が多くない。	私立大学
	検討の段階にまで至っていない。	公立大学
	研究所等ごとに管理している。	私立大学
	今後はデータベース化を検討するが、法人化後間もないことから導入していない。	国立大学
	小規模であるため、現時点で必要時に収集で間に合っている。	私立大学
	組織レベルでの研究活動件数が少ない。	私立大学
	大学評価学位授与機構の運営する大学情報データベースを活用しているため。	国立大学
	年々、管理の精度を上げているが、まだデータベース化するまで致っていない。	私立大学
	必要な情報収集にとどめている為、統一した管理体制ができていない。	私立大学
	必要性について組織として議論されていないため。	私立大学
	本学の専攻を設置している大学共同利用機関において管理しているため。	国立大学
	毎年度作成している研究年報(事業業績)で管理している。	私立大学
	教員の業績書は、グループウェア内に保管し、常に更新している。教員数33名と少ないため、データベースにしなくとも十分に活用できる。	私立大学
準備中	H21年度から教員評価にむけて管理していく予定。	私立大学
	データベースを構築している段階である。	私立大学
	過年度は対象件数が少なかったため、現在データベース構築中。	私立大学
	現在データベースを構築している。	私立大学
	構築中。	公立大学
	今後、データベース化を予定している。	不明・無回答
	平成21年度より従事データベースへ移行。	私立大学
	平成21年度運用開始に向けて準備中。	私立大学
検討中	データベースの構築を検討中。	国立大学
	データベース構築の検討中。	私立大学
	開学間もないため(2005年)検討中。	公立大学
	検討中。	私立大学
	検討中。	国立大学
	検討中である。	国立大学
	現在、データベース化を検討中。	私立大学
	現在検討中。	私立大学
	現在検討中である。	私立大学
	準備中。	私立大学
今後の課題	現状ではシステムがなくても支障なく、今後の課題としている。	公立大学
その他	公開、非公開を教員個人が選択できる。	私立大学

表 2-21 組織レベルの研究活動の情報管理をしていない理由(情報を収集していない場合)

区分	理由	属性
他の方法で管理	ReaDが管理している。	私立大学
	個人レベルでの収集しか行っていないから。	私立大学
検討中	現在、データベース構築に向け分析・検討を開始した。	私立大学
今後の課題	今後の課題。	私立大学
	今後検討の予定。	私立大学
その他	情報を収集していないため。	私立大学
	文科系大学であるため、研究活動は個人レベルで行われている。	私立大学

2-2-4-3 データベースの状況

図 2-26で「全学・法人全体のデータベースで管理している」、「学部・部門で分かれた複数のデータベースで管理している」、「情報内容(項目)毎に分かれた複数のデータベースで管理している」、「教員・研究者個人単位で収集した研究活動を集計し、組織レベルの情報としてデータベースで管理している」と回答している場合、データベースの状況を聞いた。

データベースの仕組みとしては、表計算ソフトなどデスクトップシステムで管理している場合が多いが、国立大学、公立大学では独自構築、業務用パッケージの割合も高い。

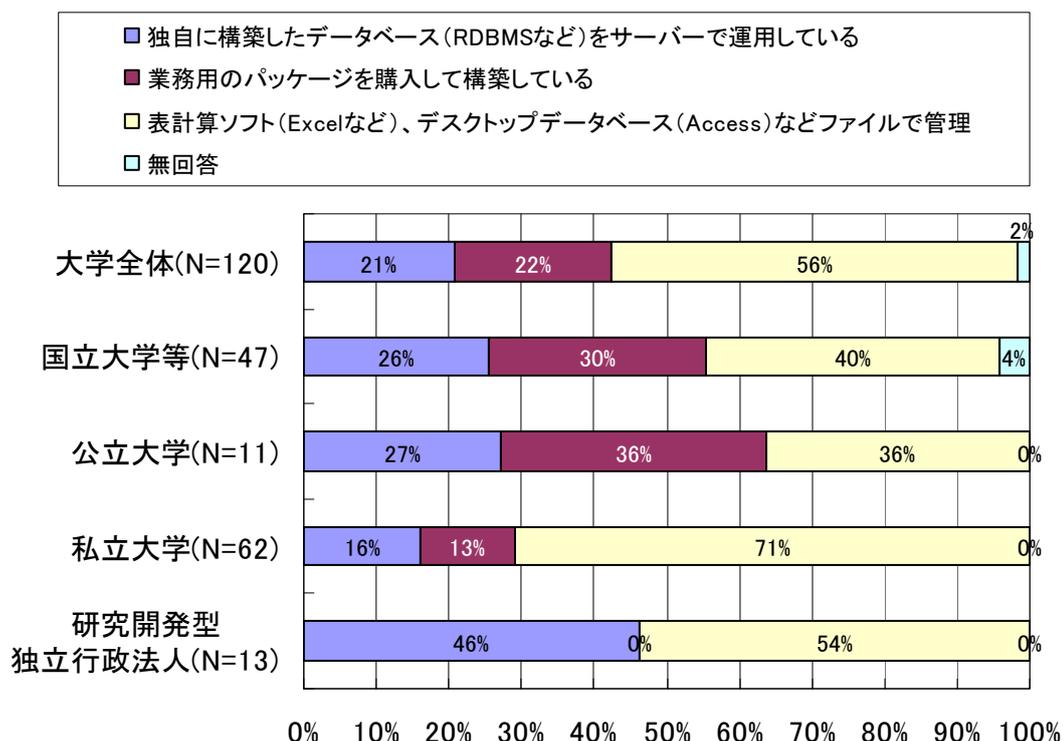


図 2-29 データベースの仕組み(研究者数規模別)

表 2-22 その他の業務用パッケージ名称

パッケージ名称	属性	回答数
(社)日本能率協会経営評価指標システムを利用	公立大学	1
ArcWizShare	国立大学	1
CampusDrams	公立大学	1
富士通(株)製Campusdrams	国立大学	1
RDBMSはOracle Databaseを使用。アプリケーションはソフトウェアベンダーの提供するパッケージソフト(研究者情報管理システム)をカスタマイズして利用	私立大学	1
Uni Vision	公立大学	1
UniVision+EV、キャンパスコア21	公立大学	1
UnivASSIST大学情報収集システム	国立大学	1
学内情報配信システム	国立大学	1
研究業績プロ	私立大学	3
研究業績プロエデュース	私立大学	1
研究者情報管理システム	国立大学	6
研究者情報管理システム(日立)	私立大学	1
大学経営評価指標(日本能率協会)	私立大学	1
大学評価・学位授与機構の大学情報DB	国立大学	1
大学評価データベースシステム	国立大学	1
長崎大学評価基礎データベースシステム	国立大学	1
日立研究者情報管理システム	国立大学	1

データベースの運用開始時期を見ると、全体としては平成 14 年度以前からという回答が多い。

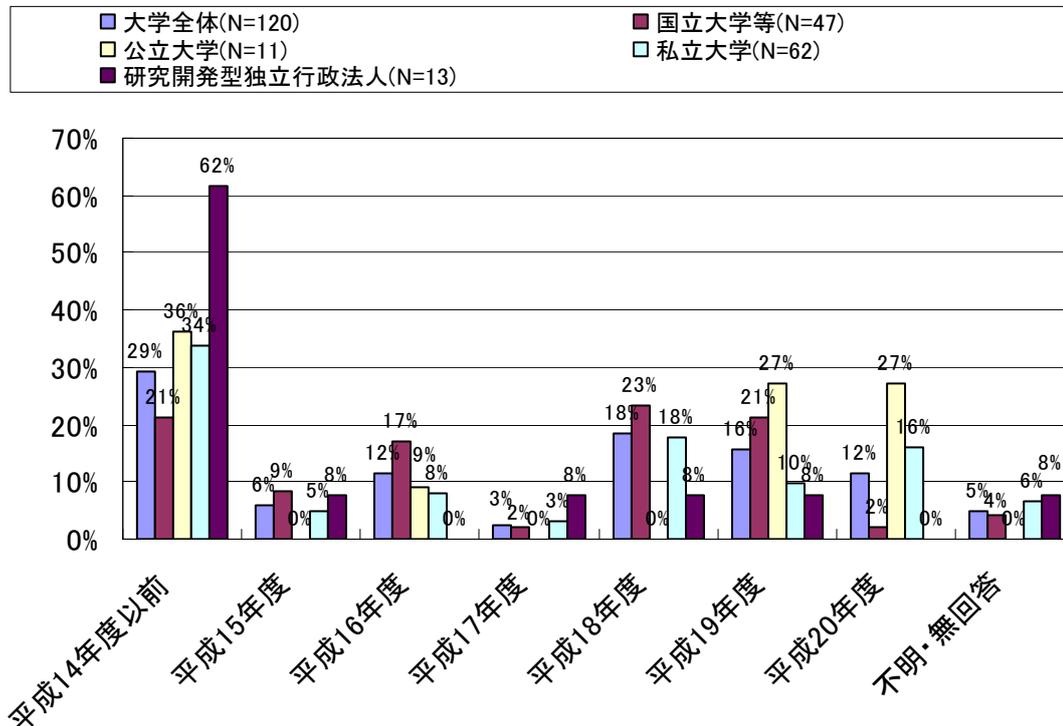


図 2-30 データベースの運用開始

外部資金、研究成果、論文、特許、外部・内部からの賞・表彰、特許等の数について納められている例が多い。

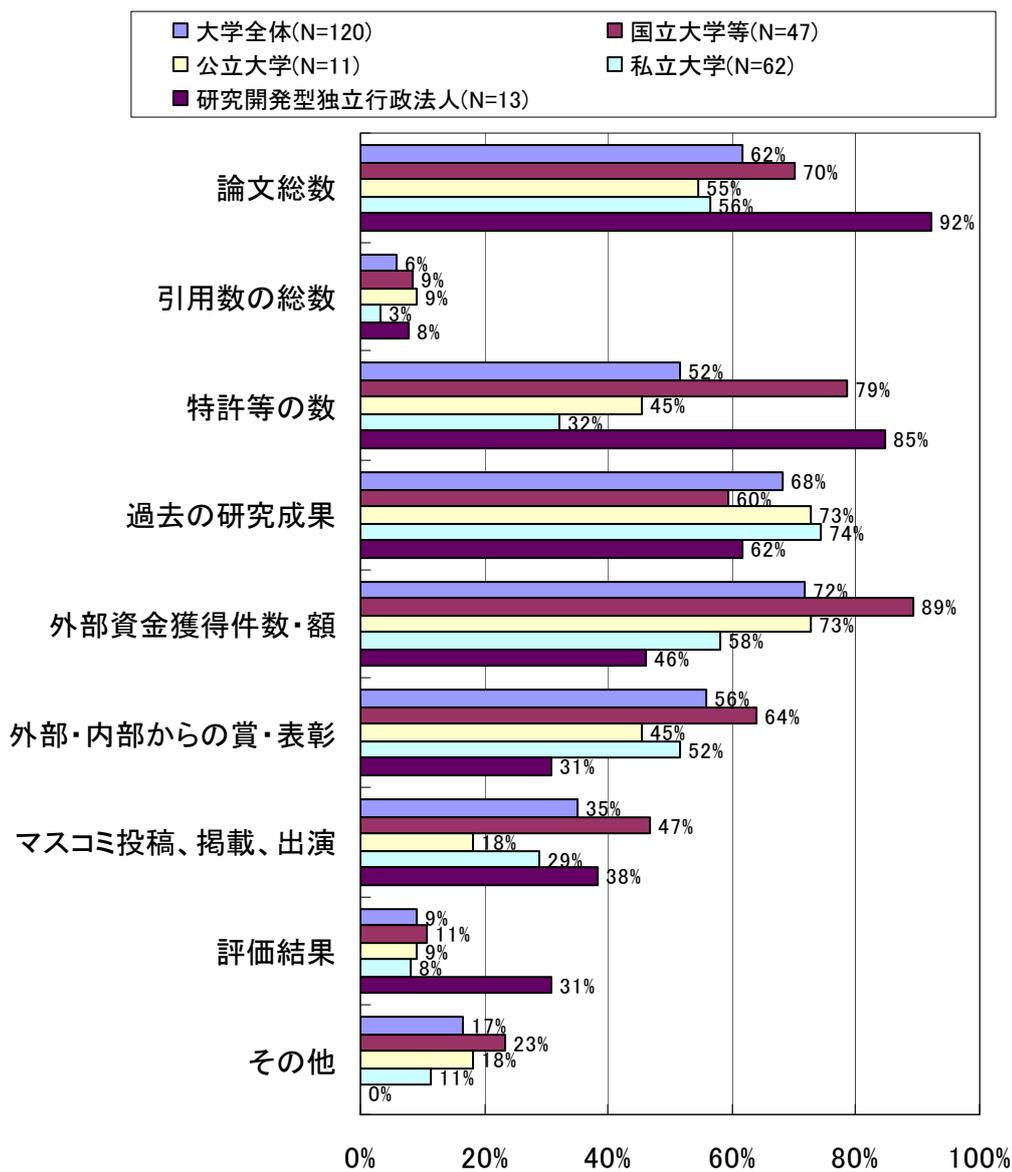


図 2-31 データベースに納められている情報

表 2-23 データベースに納められているその他の内容

区分	その他の主な内容	属性
評価関連	(財)大学基準協会による大学評価のための大学基礎データに該当する項目。	私立大学
	大学評価・学位授与機構が運用している大学情報データベースシステムに対応した項目。	国立大学
	認証評価、国立大学法人評価等に関する通知及び各種資料。	国立大学
予算	教員研究費等。	私立大学
中期計画	中期目標・中期計画の事業計画を管理している。	国立大学
	中期目標、中期計画、年度計画。	国立大学
	中期目標・中期計画、年度計画の進捗管理、年度計画の策定・実績報告を学内ホームページ上で行う。	国立大学
実績、業績	共同利用の実施状況・国際的な研究活動状況。	大学共同利用機関
	作品画像データ(服飾造形及びパターンDB)。	私立大学
	著書の管理。	私立大学
	主要会議の議事要旨、資料等。	国立大学
	競技実績・指導実績(各種競技会)。	私立大学
	学協会等の役員、国及び地方公共団体等の審議会委員等への就任状況。	国立大学
	もともとが部署単位で提出される業績目録である。	私立大学
	教育研究組織の活動の状況に関するデータ。	国立大学
	教育目標、学生数、学生募集、教育の内容・方法、教育の実施体制、教育の成果、学生支援、留学生交流、国際交流、研究者支援、社会貢献、組織・施設、教職員、委員会、評価改善活動、年度評価根拠資料等。	国立大学
	大学の組織情報(学部・研究科、学内センター等)、施設の利用状況、教職員(集計値)、教育に係る基本情報(定員、入学者数、在籍者数、アドミッション・ポリシー、開講科目、単位修得状況等)。	国立大学
学内研究費総額、博士後期課程への進学率、PD受入状況、共同研究の状況、受託研究数、起業件数等。	私立大学	
論文タイトル、学会発表、すべて自己申告による。	公立大学	
その他情報	外部研究資金への応募状況。	公立大学
	運営費交付金・外部資金等の金額と論文数等から中課題毎のコストパフォーマンスを算出するようにしている。	研究開発型 独立行政法人
検討中	今後の管理データは、現在検討中。	公立大学
	論文総数、特許等の数、外部・内部からの賞・表彰等については、今後順次データベース化をすすめる。	公立大学
その他	各種組織情報の集約化を図っている。	国立大学

データベース活用の目的としては、組織・機関単位の外部評価のための資料作成が大半であり、一般社会への情報公開も多い。

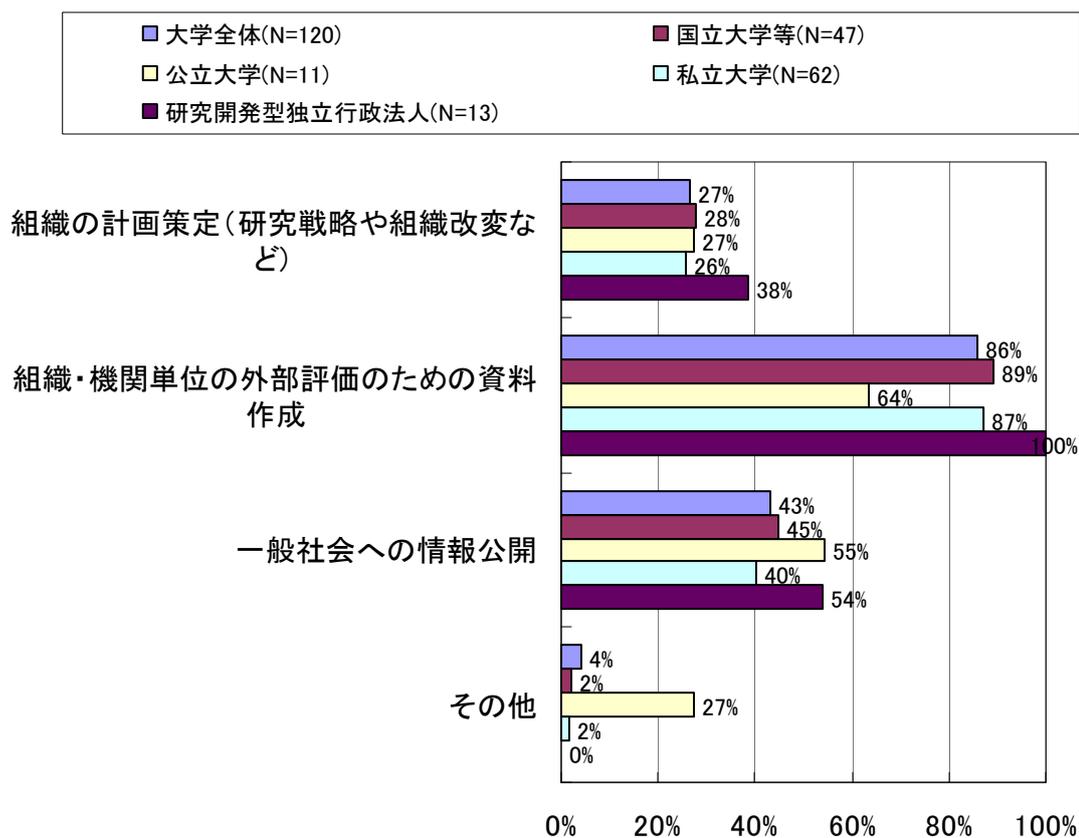


図 2-32 データベースの活用目的

表 2-24 その他の活用目的

区分	その他の活用目的	属性
評価	認証評価。	公立大学
	大学基準協会による第三者評価(平成22年度申請予定)。	私立大学
	大学が行う自己点検・評価の根拠資料として活用。	公立大学
調査	調査等作成時に使用。	私立大学

2-2-4-4 データベースのメリット・課題・工夫

データベースの活用目的として、「組織・機関単位の外部評価のための資料作成」と回答した場合について、意識している評価を聞いた。

データベースは、認証評価（機関別）、国立大学/公立大学法人評価を意識して構築されている。

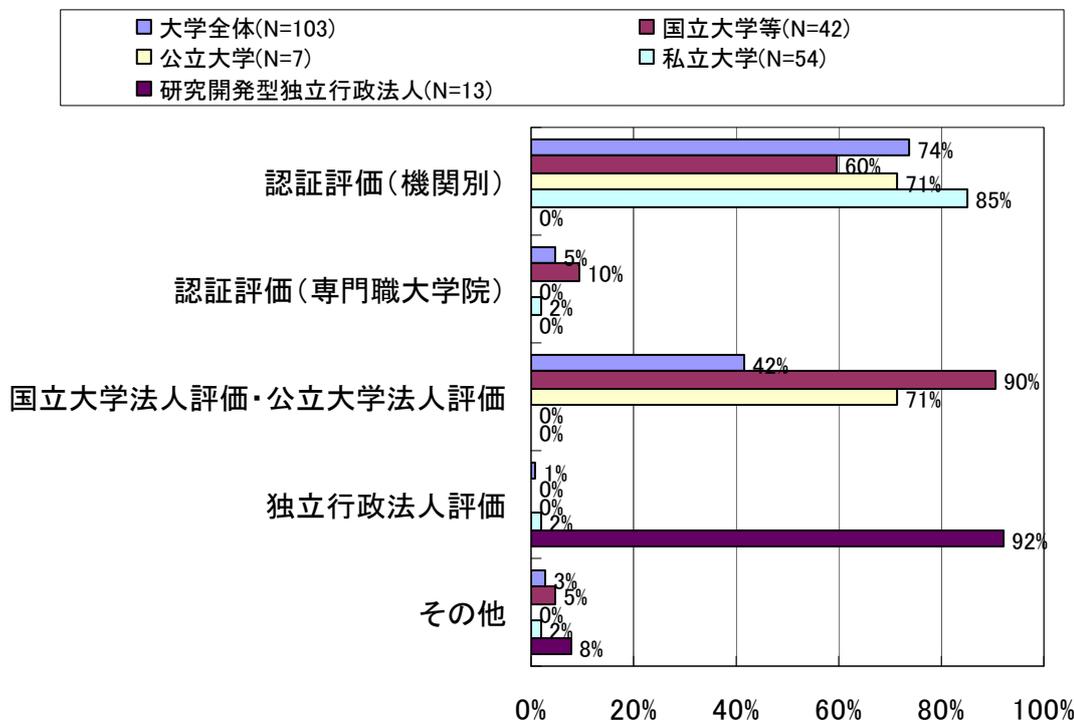


図 2-33 意識している第三者評価あるいは外部評価

表 2-25 その他の意識している外部評価

その他の意識している外部評価	属性
大学による自己点検評価。	国立大学
大学基準協会。	私立大学
特定の評価のためだけでなく、基礎的な情報の収集としている。	私立大学
今後、第三者評価に係る作業の効率化に資する整備を予定。	国立大学
PDCAサイクルの一部を構成する内部評価の正確性確保と事務処理の効率化を目的として構築しており、その中で第三者評価あるいは外部評価に利用できる項目があれば活用している。	研究開発型独立行政法人

データベース化のメリットとしては、「情報共有・情報公開の実現」、「評価に関わる作業量の削減」が挙げられている。

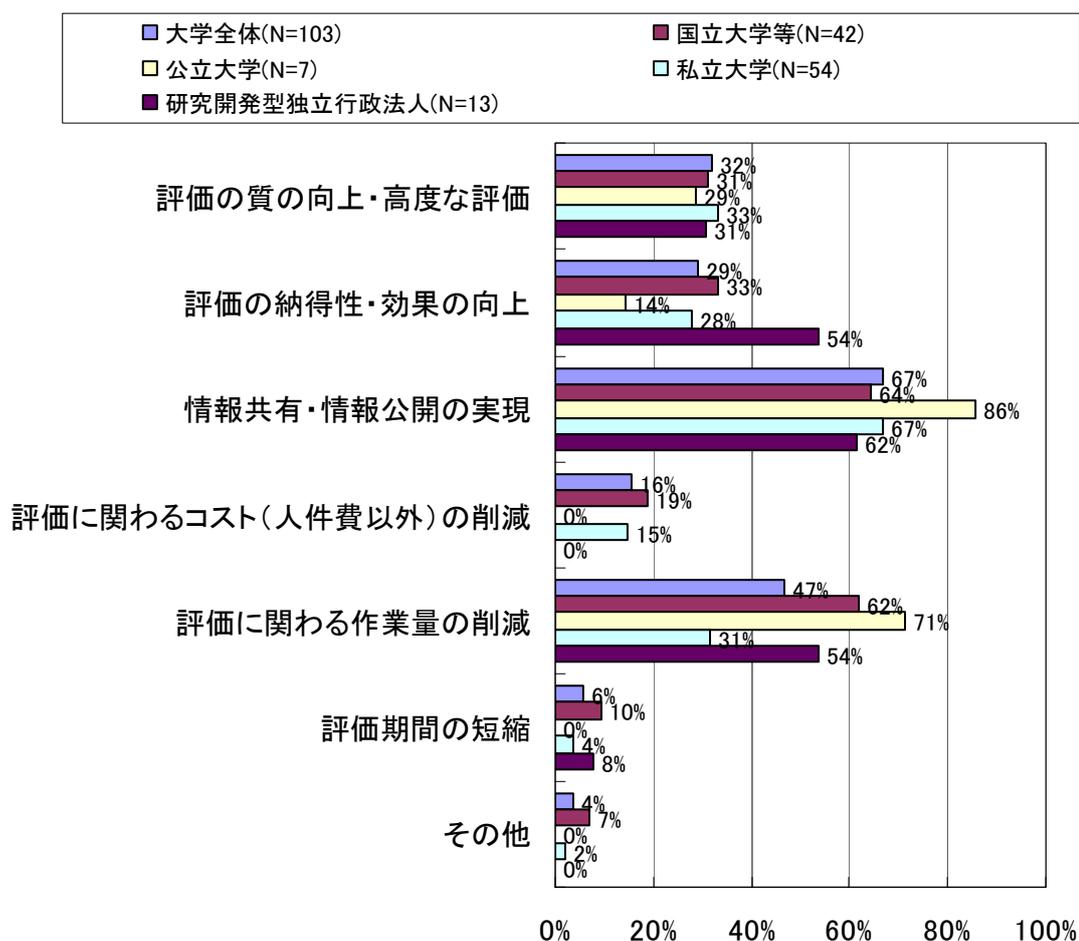


図 2-34 データベース化のメリット

表 2-26 その他のデータベース化のメリット

その他のメリット	属性
根拠資料をデータベースに一元管理している。	国立大学
学内の情報管理に対するチェックツールとなっている。	国立大学

課題としては、「情報の登録の手間が大きい」、「運用の作業（組織内）が大きい」が挙げられている。

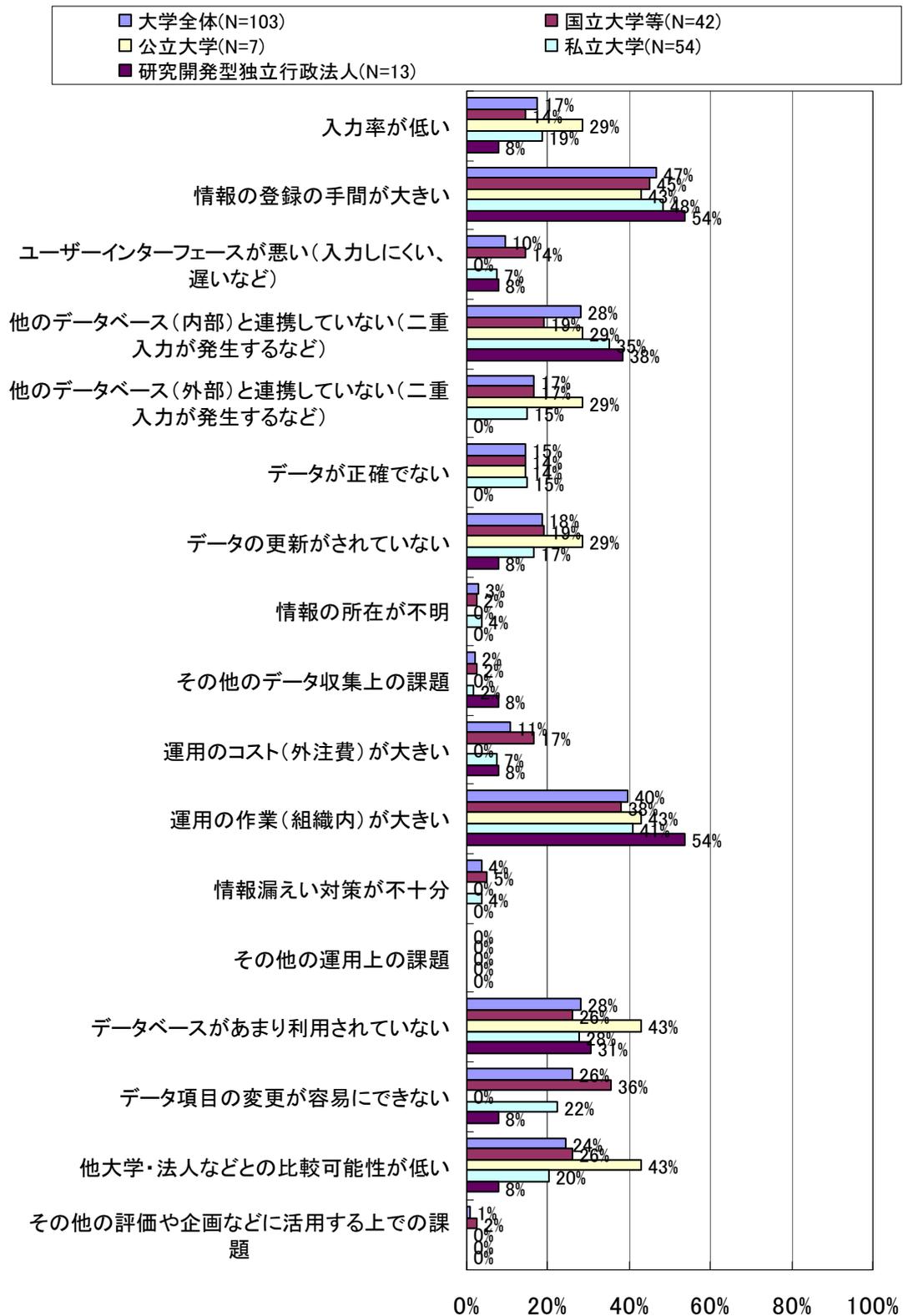


図 2-35 データベースの運用・活用の際の課題

表 2-27 その他の課題

区分	その他の課題	属性
データ収集	データに漏れがある場合がある。	研究開発型独立行政法人
	項目の不足。	国立大学
	データベースといえる形にすること。	私立大学
運用	用途に適したデータに加工する作業の手間が大きい。	国立大学
評価や企画などに活用	運用作業、調整等、システム面以外のコスト(作業量等)が大きく、発展的利用、機能強化に手がまわらない。	私立大学
	機構大学情報DBと文部科学省など他の組織から求められるデータの定義が微妙に違うため、データを揃えるのに二度手間となっている。	国立大学
	ReaD等の外部データベースと連動したシステムを導入しているため、外部データベースとのデータ交換の仕様が変わる度に運用の作業が必要となる。	国立大学
	運用面において、データベースに登録するユーザ管理。人事システムと連動していないため、定期的に転入・転出・退職等の在籍状況に応じて、更新作業が必要。	国立大学
	データベース利用ユーザの意見を問題点として再検討し、カスタマイズを行っている。	国立大学

実効性、利便性を高める工夫としては、「情報共有・情報公開などに利用することを可能とした」、「入力を義務づけた」が多く挙げられている。

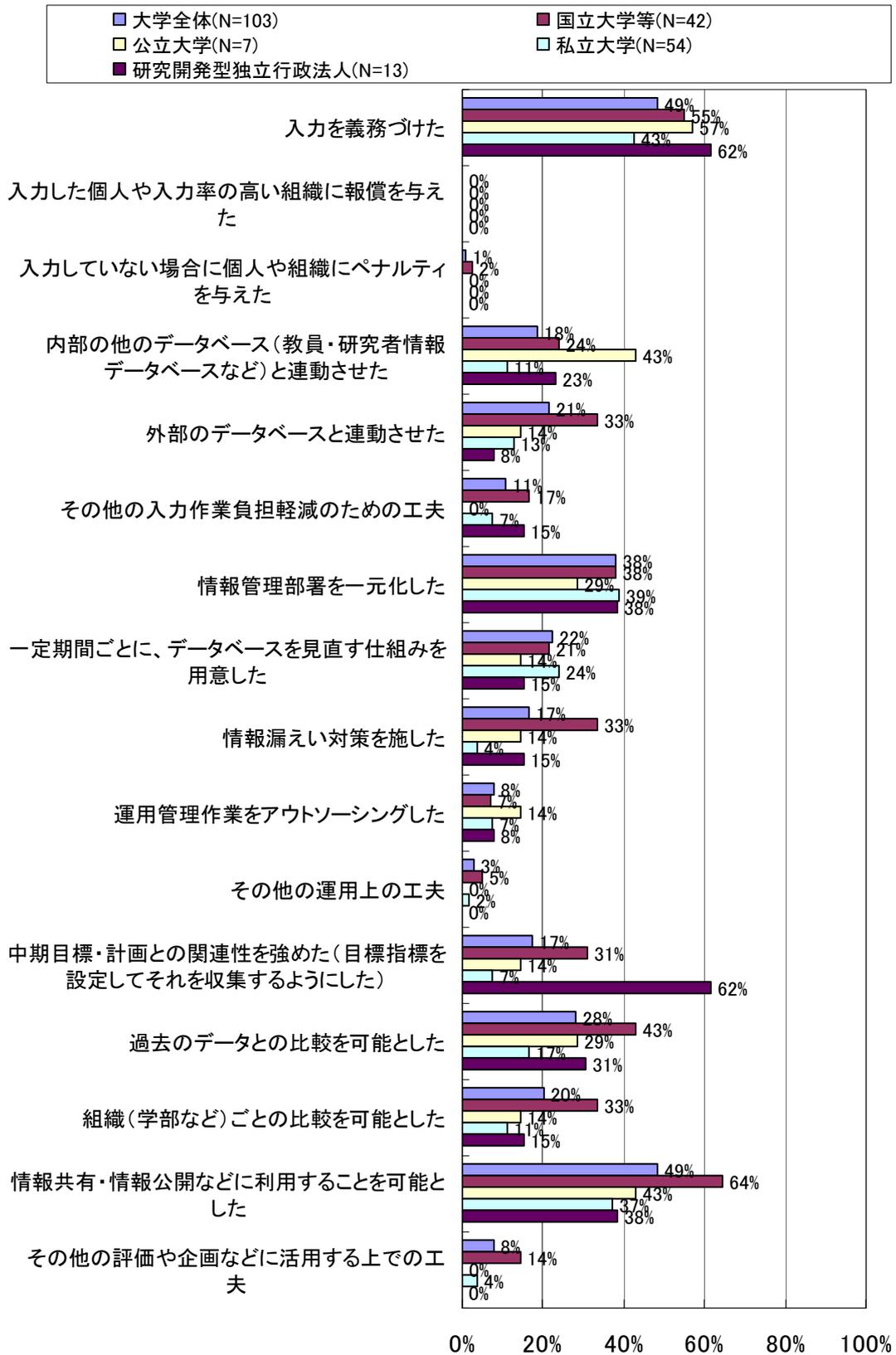


図 2-36 データベースの実効性や利便性を高めるための工夫や取組

表 2-28 その他の工夫

区分	その他の工夫		属性
入力・更新率の向上や入力作業軽減	依頼・督促 入力支援・一括入力	情報の提供を義務づけた。	国立大学
		入力代行。	私立大学
		入力補助員を用意した。	私立大学
		担当授業科目の一括登録、定期的に入力依頼。	国立大学
		データの一元化により入力作業を軽減。	大学共同利用機関
		入力のための契約職員を雇用。	研究開発型独立行政法人
		入力は特定の部署で集中して行っている。	研究開発型独立行政法人
	入力方法改善	極力データでの提供を依頼している。	私立大学
		教員の活動報告をExcelデータで集めた。	私立大学
		メールによるデータ収集。	大学共同利用機関
	その他	研究者以外の補助入力者の制度を設けた。また一部の学内研究助成において申請条件にDB入力を付加した。	私立大学
		データベース化に向けた全学的な取り組みを図るため、WGを設置した。	国立大学
運用	システム改善	予算の範囲内でカスタマイズを行っている。	国立大学
		教員の活動報告をAccessで管理した。	私立大学
	運用体制	部局等事務担当者を置いた。	国立大学
		評価に必須となるデータは、定期的収集し、蓄積。	国立大学
評価や企画などに活用	データ出力・レポート	論文件数など定量的情報の抽出。	国立大学
		データ検索機能を有したものとした。	国立大学
		入力データをCSV形式でダウンロードすることを可能とした。	国立大学
		優れた業績の抽出。	国立大学
	その他	収集し、一元管理。	私立大学
		処遇反映の参考。	国立大学
		基準協会の様式に合わせた。	私立大学

表 2-29 特に工夫した点

区分	特に工夫した点	属性
公開	学内イントラネットで公開している。	私立大学
	外部への情報公開について、項目ごとに公開・非公開の選択を可能とした。	国立大学
	登録データを定期的にCD化し、公開。	公立大学
他DB等との連携	ReaD等の外部のデータベースと連動することで、業務の重複を削減した。	国立大学
機能	情報のくくりとなる単位を、情報流通と共有など、利用度の高い、研究室単位とし、項目及び情報連携の軸を戦略的に決定。	研究開発型独立行政法人
	ユーザが、各自のパソコンからWebを介して、データ・参考資料の『閲覧』、『編集・登録』、『検索』を行うことができる。	国立大学
情報項目	データ収集の目的を、自己点検と評価対策と明確化し、必要以上のデータを集めない。データの精度を高く保つ。	大学共同利用機関

2-2-5 研究開発評価データベース全般

研究開発評価に関するデータベースについての課題認識、問題意識、意見を聞いた。

さまざまな意見があったが、共通のデータベース、共通のデータベースシステムが必要であるというもの、コストや人材の確保や入力率の改善といった運用上の課題があるとするものが挙げられる。必要性は認めるものの、人材やコストの面で整備に到っていないという意見もある。

表 2-30 研究開発評価に関するデータベースについての全般的な意見

区分	課題認識・問題意識・ご意見	属性
共通データベース、共通システム	共通で利用可能な研究成果データベースの整備（特に補助金申請や各種調査などに有効に利用できるシステムの作成）。	私立大学
	各大学が個別にデータベース化するだけでなく、全国的なデータベース化を図り、併せてそのデータを国外にも公開するようなシステムの構築を検討してほしい。	私立大学
	小さい大学ですので、独自でデータベースを構築管理する手間をかけるほどのニーズがないというのが正直なところで、共通のシステムが提供されたらありがたいと思います。	私立大学
	共通で利用可能なデータベースとともに、それに準拠したデータも出力できかつ各機関のデータベースとしても利用できるオープンソースのソフトウェアの提供も必要と考える。	公立大学
	研究活動のデータベース化は研究活動の活性化を促すメリットがあると認識しているが、多様な研究内容を画一的に評価することは難しく、教員評価に転用することが困難であると考え。各大学が共用できる研究データベースのフォーマット化が進めば、研究の一層の進展が期待できると考える。	私立大学
	機構・大学共通のデータベースの整備、既存のものからデータを容易に移せること、法人評価等に対応させることが必要である。	大学共同利用機関
	製品版のデータベース等を購入するとコストがかかる可能性があるため、大学全体で共通に利用可能な研究成果データベースの整備・充実が必要不可欠である。また、国の方での予算補助も重要な課題である。	国立大学
	研究者個人の業績に関するDBはほとんどの大学で導入済みと思われるが、製品の選択肢が少なく、機能の競合が少ない状況で、大学自身にとっての効果や大学間比較・評価の有効性という面で十分とは言い難い。ReaDの要件・フォーマットは簡素化の方向に向かっているが、大学・研究機関のアピールという点では「広く、かつ深い」情報を盛り込めるDBの規格がある程度統一的に整備される必要があると感じる。本学ではオリジナルのものを開発したが、満足のいく機能を確保したものの、開発自体は時間・コストを要するものであった。国の研究・開発の下でオープンソースの基盤が開発されるような方向性が望ましいと考えられる。	私立大学
	(1) 大学等の共通フォーマットをもったDBの共同利用。 (2) 登録情報の質的統一性を保障する基準づくり。	公立大学
必要性を十分認識しているが立ち上げ活用するまでに、多大な労力を要する。他大学と共通化できるようなデータベースが欲しい。	私立大学	
整備、運用上の課題	研究者総覧と情報データベースの2つのシステムとして独立して稼働しているため、将来的には統合するための整備が必要である。	国立大学
	個人情報に関し近年敏感になっていることから、意図的にデータベースに掲載しない。あるいは掲載しても特定の部分だけ除いているケースが見受けられるようになった。改善を指導しても、個人情報を盾にされるとそれ以上言えない。どこまで踏み込んでいいか悩んでいる。	私立大学
	研究に関するデータベースを含むすべてのデータベースについて、データ項目を初めとして常に見直し整備していく必要がある。ただし、構築・運用に係るコストや人材をいかに充実していくかは、運営費交付金が毎年削減される中、大きな課題である。	国立大学

区分	課題認識・問題意識・ご意見	属性
	構成員全体の合意の下、同じやり方で入力してもらうまでにかかり時間がかなり、啓蒙活動が必要であり、またそれを継続的、恒常的に入力・活用してもらうことに関しても、さらなる啓蒙活動と時間をかけての習慣化が必要である。	私立大学
	研究開発評価手法自体が確立されていないことから、様々な評価に対応するためにはデータ項目を網羅的にせざるを得ないため、入力に多大な労力を費やし、入力率が良くない。	国立大学
	定量的になるため、質の評価には適さない。	国立大学
	学内での研究に対する管理や評価についての意識が低い。	私立大学
	現在のデータベースの集計機能、処理スピードの改善。	国立大学
	データの抽出等共同利用が可能なデータベースの構築、教員全てのデータをデータベース化する体制の整備。	国立大学
	ミッション達成に向けた研究の重点化と競争的環境による研究の質的向上を目指し、20年度の研究より、各組織の研究課題及び一次評価の結果を収集して組織横断的に研究計画を評価し、予算配分を行っている。データベースは、この目的のためのものであるが、上記の仕組みが導入段階であるため見直しを行いつつ最適化を図る必要があり、データベースについてもその課程で項目の変更等を行う必要がある。	研究開発型 独立行政法人
	組織(研究科)によって評価項目や評価基準が異なっても、柔軟に対応できるシステムが必要。また、システムの選定にあたっては、改善やバージョンアップなど将来のコストも考慮する必要がある。	公立大学
必要性を感じない、時期尚早	現在本学では組織的な研究開発の実施例は少なく、データベースを構築して評価する程の状況には至っていない。既存の研究者情報管理システムの有効活用で対応可能と考えている。	国立大学
	本学は小規模のため(教員数・研究者数が少ない)、RDB等のデータベースの必要性は今の所感じていない。	私立大学
	当大学においては、従来から教員の研究成果を紀要・所報に掲載し公表しております。平成20年度においては、情報・システム研究機構国立情報学研究所において、当大学が発行した全紀要について電子化することを決定した。研究開発評価に関するデータベース化への取組は、していない。	私立大学
	データベース構築整備より研究開発活性化が課題となっている。	私立大学
	研究機関内部での研究開発評価は十分になされていない。データベース整備の前に、評価方法や体制について、検討する必要がある。	私立大学
	研究者の業績については、ReaDを活用することによって、DB化は可能と考えている。また、研究開発課題についても同様である。しかし、科学研究費補助金等すでに別のDBが存在するものについては、ReaDにもその情報を反映させることができれば、二重にデータ入力することにならず、業務が効率化できる。	大学共同利用機関
必要性は感じる	本学としては、今後研究開発に関するデータベース化の必要性は感じている。現在、事務組織の改革に着手し、これが定着した段階で全学におけるデータベース化の一元化に取り組みたいと考えている。	私立大学
	部署、個人間で情報量に差異がある状況のためいつでもどこでも同じ情報が活用できるよう整備が早急に必要と考えています。	私立大学
	全学共通して教職員が自由に入力し、閲覧できるデータベースシステムが必要。	私立大学
	教員の研究活動に関する情報については、必要な度に事務局が情報収集するのではなく、教員自身に随時、入力・更新するよう義務付けるような仕組みで一元的にデータ管理するなどの対応が必要。	私立大学
	研究開発評価という言葉に文系の教員にはあまりなじみがないという意識がある。教員の意識向上とともにデータベースの必要性を強調していかなければならない。	私立大学
	研究活動研究成果を、その後の研究活動に活かしていけるようにするには、まず、共通で利用可能な研究成果データの構築が必要であり、また、公開出来るようにしていく必要を感じている。	私立大学
	法人評価等にも活用できるようなデータベースに整備する必要があると考えている。	公立大学

区分	課題認識・問題意識・ご意見	属性
	学内での競争的資金制度が多くないので、担当課でそれぞれ管理しているが、情報の共有が図られていない。	私立大学
	研究開発評価の情報は利用頻度が高いので、一元管理できるデータベースの整備は必要であると思われる。	私立大学
	全国の大学、研究機関等共通の研究成果データベースの整備をし、一括管理できる工夫が必要である。	国立大学
	本学は法学部(大学院法学研究を含む)のみの単科小規模大学であり、また開学からの年数も浅く、これまでは必要な情報は比較的容易に収集することが可能であった。このため、現状ではDB管理は行っていない。ただし、今後、鋭意取り組むべき課題との認識はある。	私立大学
	現在、情報内容毎にデータを管理しているが、全学的に共通したデータ管理をする必要があると考える。それに伴い、データの内容も充実させる必要性も認識している。	国立大学
	教員および、大学全体に於ける、研究等のデータベースを作成することは、重要であると認識している。今後の課題としたい。	私立大学
	今後、検討すべき課題だと思っています。	私立大学
	今後の検討課題。	私立大学
	全学的な研究成果DBの整備を検討の予定。	私立大学
必要性は感じるが課題あり	研究開発評価の分野に限らず、組織内における様々な分野のデータベースの整備が急がれるが、勉強会等を持つレベルにあり、実際に運用できるレベルにはない。必要性を感じるが、財源や人材の確保など、のりこえるべき課題は多い。	私立大学
	データベースの構築・運用についての必要性は十分認識しているが、現状ではマンパワーの不足等で実行できていない。今後、データベースの整備に向けて検討することとしたい。	私立大学
	ホームページで研究者情報として公表するために独自に構築したデータベースのデータを他の用途に活用する場合、別途プログラム開発が必要となっており、活用が容易ではない。	公立大学
	プロジェクト研究開発では、各個人の研究業績よりはプロジェクトの完全な実施が問われる。そのような中で、個人の学会等での業績とプロジェクトへの貢献度をどのように関連させ、定量的にデータベース化することに課題を感じている。	研究開発型 独立行政法人
	データベースの必要性については、十分に理解しているが、評価制度が確立していない現段階で、多くのコストをかけて、全ての研究のデータベースを構築することはできない。	私立大学
	各種調査のたびに、書類をめくったり、関係部署に照会したりしており、データベース作成の必要性は大いに感じているが、何から手をつけてよいのかわからないのが現状である。	私立大学
	認証評価等への対応のためにも、なんらかのデータベースの整備が必要と認識しているが、まだ十分な検討に至っていない。	公立大学
	総合大学のため、学部数のみならず分野は膨大な数に及ぶため、利用目的の明確化の必要性、データの定義付けの問題点が多々ある。	国立大学
準備中	研究者総覧システムを導入し、本学教員の全員の研究成果等を学内外に発信するため準備中。	国立大学
	研究者に関する個人カルテ等を電子化し、必要がある項目を抽出して、誰でも(教員又は職員)が利用できるようなデータベースを取り入れる予定。データの更新も研究者がいつでもできるようにする。	私立大学
	現在、共通で利用可能な研究成果データベースの整備を進めている。	研究開発型 独立行政法人
	共通で利用可能な研究成果データベースの構築に向けて準備中。	研究開発型 独立行政法人
	今後、学内共通のデータベースを作成し、大学公式HP上に掲載をしていく予定。	私立大学

区分	課題認識・問題意識・ご意見	属性
	平成20年度9月頃から研究業績を管理するパッケージを導入し、平成21年1月31日、本学専任教員全てに履歴及び研究業績を登録するように依頼した。	私立大学
検討中	構築の必要性は十分認識しており現在検討している所である。	私立大学
	研究開発評価に関するデータベースの必要性は認識しており、現在、研究者の情報管理の基盤となるデータベースの構築を計画中。	私立大学
	Readに登録する様、指示しているが教員個々が積極的に対応していない。学内においてデータベース構築に向けて、努力している。	私立大学
	現在は、必要に応じて研究者からデータを収集し、必要とする部署の事務担当者がデータベース化を行っているが、今年度以降研究者がデータベースに直接入力することができるシステムを導入することを検討している。	私立大学
	現在検討中で近い将来導入予定。	私立大学
	研究業績を手始めとして、教育業績、診療業績等を通て集約し利用するデータベースの整備を検討しはじめたところ。現在は、Web上でWord文書による研究業績目録が閲覧できるに過ぎない。	私立大学
	データベース化の重要性は認識しており、今後その構築に向け体制整備を検討していく予定。	私立大学
	必要性は感じるが、データベース化には至っていない。	公立大学
整備すべきDB	共通で利用可能な研究成果データベースの整備など。	大学共同利用機関
	大学の規模に見合ったデータベースシステムの構築。	公立大学
	共通で利用可能な研究成果データベースの整備。	国立大学
	教員の研究業績や研究内容のデータベースの充実。	公立大学
	簡単で利用価値のある、多分野を網羅するデータベースの整備。	国立大学
	現在は、研究成果について、情報発信を目的としAccessを利用したデータベース化を実現しているが、将来的には、そのデータベースを基盤とした全学的に共通で利用できるツール(研究計画調書や評価報告書の作成など)の構築が望ましいと考える。	私立大学
	研究開発のライフサイクルを念頭に置いたシステムを目指すべきと考えている。	研究開発型独立行政法人
	個人研究・共同研究・プロジェクト研究等、すべての研究活動において、研究成果の点検・評価活動により高度に活用できる研究成果データベースの整備。	私立大学
	大学の規模に見合ったデータベースシステムの構築。	公立大学
	法人全体の研究成果データベース管理システムの整備。	国立大学
	学内外のデータベースと連動可能な研究者情報データベースの整備。	公立大学
その他	ReaDの仕様が変わるたびにカスタマイズが必要になる。ReaDが発生源入力では正確性が担保できないのでは。あれで政策をどう考えているのか不明。	国立大学
	研究開発のデータベース化は、種々の評価に対応するために有効な措置であるが、研究そのものには役立たない。	大学共同利用機関
	HPで公開しているデータベースの利用率を向上したいが、専門性が強いものもあり問題である。	大学共同利用機関

区分	課題認識・問題意識・ご意見	属性
	<p>研究に関するデータベースとして、本学には、教員個人評価の一環で収集した業績DB及び研究・産業連携情報としての研究者総覧がある。それぞれ教員に入力を課するものであり、トータルで見ると、教員に余分な負担を強いる形になっている。今後の課題として、双方を共通化し入力する負担を軽減することを構想している。</p> <p>本学において、組織的に実施している研究開発課題は、概算要求(特別教育研究経費)のプロジェクト、学部横断型研究プロジェクト及び学長・部局長裁量経費等によるプロジェクトがあるが、それぞれ担当する部局で情報(課題名称、中期目標・中期計画との関係、研究成果、課題の内容、担当者、実施体制、予算等)を把握している状況にある。大学全体の研究開発に関するデータベースには様々な事項が存在すると考えられ、統一されたフォーマットで構成員が等しく利用可能な情報を整備することは今後、外部競争的資金への応募や様々な場面で利用価値は多くなると思われるので整備が望まれるが、要員や予算等の確保等があり実現は困難な状況にある。</p> <p>第三者評価(機関評価)などにおいて、特定の条件でのデータ、例えば学生情報(10月1日現在で、特定の資格等を有する学生教と国費留学生数を除いた学生数やその比率等)等を示したいと考えるケースがままある。一般的にDBでは、このように状況に応じた様々な条件がついたデータを抽出することは困難と考えられる。この例で言えば、5月1日現在の国費留学生を含んだデータしかなかったりする。そうした場合、担当部署に改めて照会しデータを収集することになる。評価担当者において、DBの情報がそのまま使えるのかあるいは使えないのかの判断が必要となり、従前と変わらずデータ収集に相当時間を費やすことなどが想定される。こうしたことから第三者評価(機関評価)のためにDBを新たに設けるとした場合、実用性に乏しいものとなるのではないかと、また費用対効果の観点からも、果たして見合うものになるのかという危惧・疑念を感じる。以上は、第三者評価(機関評価)に直接携わった者としての感想である。ただ、大学の概要を表わす程度のデータの意であれば、それはそれで実用性はあると思う。</p>	国立大学
	内部の他のデータベースとの連動。	国立大学
	e-Radの統一と充実。	私立大学
	既に構築されているReaDや科研費採択課題・成果概要DBなどを活用し、二重入力など作業負担増を回避することが重要である。(各省庁等の調査の整理・統一、あるいは定義、基準日の統一が必要)	国立大学
	本学は、看護学部、教育学部および同通信教育課程からなる大学である。開学後日も浅く、完成年度を向えていない。但し、個々の教員は、研究意欲も高く、今後を期待している。	私立大学
	他大学の先進的な事例があれば、集計結果等を通じて知りたい。	私立大学
	公的な機関等からのご指導又は援助等が欲しい。	私立大学